

氏名	大道 千晶
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6307 号
学位授与の日付	2021年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	The Influence of Adverse Effects on Quality of Life of Survivors of Gynecologic Cancer (婦人科癌患者における治療前後 QOL 評価の検討)
論文審査委員	教授 神田秀幸 教授 木股敬裕 教授 田端雅弘

学位論文内容の要旨

【目的】 婦人科癌患者の治療前後における Quality of life を客観的に評価し、充実した患者支援につながることを目的に本検討を行った。

【方法】 平成24年8月から平成28年10月の間に当院で初回治療を行った婦人科癌患者75症例を対象に、治療前から経時的に Functional Assessment of Cancer Therapy(FACT) scale を用いて身体面、社会面、精神面、活動面という4項目での QOL 評価を行った。

【結果】 治療後合併症のうち下肢リンパ浮腫、消化管障害、排尿障害の3項目につき検討を行った。全症例で下肢リンパ浮腫発症群は有意に身体面、精神面での QOL 低評価を認めたが、特に子宮頸癌において顕著であった。複数の治療後合併症をもつ重複群ではその他の群に比して身体面・精神面で有意に QOL 低評価であった。

【結論】 婦人科癌患者における治療後の下肢リンパ浮腫は QOL 自己評価を低下させる大きな要因となりうる。

論文審査結果の要旨

婦人科がん患者は近年増加しており、その治療に伴う quality of life (QOL)の低下が懸念される。そこで、申請者らは、単施設での婦人科がん生存者を対象に、入院時の合併症別に、治療前・治療後6週間以内・同3-6ヶ月の時点でのがん患者用 QOL 自己評価票による評価(身体面・社会面・精神面・機能面)を行い、婦人科がん生存者の合併症と QOL との関連を明らかにすることを目的に本研究を行った。

対象となった婦人科がん75症例のうち、下肢リンパ浮腫発症群で、身体面および精神面の QOL で、統計的有意差をもって追跡期間中の低評価を認めた。この傾向は、子宮がんに限定すると顕著にみられた。また、複数の治療後合併症を持つ群では、その他の群に比して、身体面・精神面の QOL が有意に低評価であった。婦人科がん患者における治療後の下肢リンパ浮腫や複数の合併症は QOL 自己評価を低下させる要因となり得ることが示唆された。

委員からは、他婦人科がん種別の検討、リンパ腫の診断種別の検討、結果の応用について質問がなされた。他婦人科がん種別の検討を行った結果、リンパ浮腫の種別・病態別の相違、医師の卒前卒後教育での患者 QOL 理解の重要性について考察し、回答がなされた。発表は的確で、周辺知識の学習も十分になされていた。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。